香川県農業試験場研究報告　第 25 号(1974 年 10 月)　 12-17

トマトに対する熟期促進剤エスレルの効果について

片井政一

　ハウス抑制トマト,促成トマト,および半促成トマトで,エスレルの処理濃度,処理時期の相違が果実の成熟促進日数,一果平均重,収量および品質におよぼす影響について検討を行いつぎの結果をえた。

１．エスレル処理による熟期促進効果は,作型と処理花房および処理濃度により異なった。すなわち熟期促進効果は作型別ではハウス抑制>促成>半促成の順位で高く,花房別では,ハウス抑制と促成トマトは第 3 花房が,半促成トマトでは第 1 花房がもっとも高かった。また処理濃度が高くなる程早熟化した。

２．エスレル処理による一果平均重および収量は,ハウス抑制トマトでは 400ppm 処理が減収したが,その他の処理時期および処理花房による差異は認められなかった。一方促成トマトと半促成トマトでは開花後 30 日処理が明らかに減収した。

３．エスレル処理による糖度の低下はみられなかったが,硬度は半促成トマトでやや低くなる傾向が認められた。